



- ◇2022 年度定時総会の報告 堀越正夫(地域 P&C 第 3 期/専務理事・事務局長)……1 頁
- ◇第 14 回地域づくりシンポジウムの感想 村田武一郎(理事長)……2 頁
- ◇第 14 期地域 P&C 養成塾の報告と今後の運営方針 若林稔(地域 P&C 第 5 期/地域 P&C 養成塾塾長)……3 頁
- ◇第 14 期 P&C 養成塾の感想と今後への抱負 森本文也(地域 P&C 第 14 期)……4 頁

一般社団法人 地域づくり支援機構 2022 年度定時総会の報告

堀越正夫(地域 P&C 第 3 期/専務理事・事務局長)

去る 6 月 4 日(土)、奈良県社会福祉総合センター研修室 B において、「一般社団法人地域づくり支援機構 2022 年度定時総会」を開催いたしました。

以下のとおり総会は成立し、議案は決議されましたので、報告を申し上げます。

1. 総会の成立

総会は、正会員 69 名に対して、出席会員数 43 名(本人出席 14 名、委任出席 29 名)と過半数の出席により成立いたしました。

2. 総会議案議決について

- ①第 1 号議案 2021 年度事業報告並びに収支決算承認の件……本件は、原案どおり承認可決されました。
- ②第 2 号議案 2022 年度事業計画並びに収支予算承認の件……本件は、原案どおり承認可決されました。
- ③第 3 号議案 役員(理事)選任の件……本件は、原案どおり承認可決されました(下表参照)。
- ④第 4 号議案 役員(監事)選任及び退任の件……本件は、原案どおり承認可決されました(下表参照)。

事項	役職名	氏名	資格	備考
役員選任	理事	原田弘之	地域プランナー&コーディネータ	地域 P&C 養成塾塾頭
役員退任	監事	北 紀英	地域プランナー&コーディネータ	一身上の都合のため
役員選任	監事	高岡宏芳	地域コーディネータ	

※事務局は、下記のメンバーとなっています。よろしくお願ひ致します。

事務局長兼会計担当:堀越正夫、事務局次長:中辻孝之助

渉外部長:大塚徹、広報担当:東千恵子、布川拓海

地域 P&C 塾塾長:若林稔、地域 P&C 塾塾頭:神剛司、原田弘之

地域 P&C を認証

総会終了後、地域 P&C(第 14 期)の認証式が行われ、5 人の仲間が誕生しました。写真左から、向川智己氏、鈴木智香子氏、森本文也氏、松永想氏。なお、服部嗣人氏は、茶業繁忙期により欠席のため、若林塾長が代理されました。

シンポジウムにおいて、彼らの活動報告が行われました。



第14回地域づくりシンポジウムの感想

村田武一郎(理事長)

「結ぶ 繋がる 廻る めぐる 奈良」をテーマとして、6月4日(土)午後、第14回地域づくりシンポジウムが開催された。奈良において、今後とも様々に「結ぶ 繋がる」ことが増えることを願っている。それが、地域の活力を増していくこととなる。

このシンポジウムでは、地域づくりに関するキーワードが多く得られた。そして、シンポジウムには様々な分野からご参加いただけるようになってきた。講演・発表・参加・準備を行ってくださった皆さまにお礼を申し上げる。

演目ごとに、少しばかりの感想を記しておきたい。

1. 基調講演:「あしたのなら」受賞から深野は今～継承～深野〇〇会 北森義卿氏

少子高齢化が進み活力を失った典型的な中山間地域を「空き家がでない村、子どもが増える村」に変えた北森さんの活動の積み重ねに敬意を表す。深野〇〇会というネーミングが凄い。地域資源を発見し、そのエンパワメントを図り続けておられ、年を経るごとに、〇〇に入る言葉が増えている。継続と着実な拡大が地域の将来を創りあげていくことを証明しておられる。

2. 特別上映会 Yoshino Ringyou & クロストーク クロストーク:デイビッド・カパララ氏×原田弘之氏

デイビッドさんは、私たちとは異なった視線で「地域の良さ」を映してくださった。そして、地域の人の思いや意気込みを十分に伝えてくださっている。さらに、地域の子どもたちへ地域の重要な産業である吉野林業を紹介する活動も行っておられる。これらは、次の世代へと繋がる重要な活動と言える。

3. 奈良フェニックス大学活動紹介:山添村広瀬地区の活力醸成—交流により故郷を未来に残す

奈良フェニックス大学地域研究科山添グループ

「ビジター」から「リピーター」、そこから「共働プレーヤー」へと着実に歩みを進めてこられたことに敬意を表す。「よそ者だからこそできることを意識しつつ、引き続き実践活動に取り組み、交流を通じ、持続可能なコミュニティモデルの構築に協力していく」とのこと、すばらしい活動である。

4. 地域P&C 養成塾第14期生発表

(1) 古道で環がひろがる—風の郷 森本文也氏

「住む人々と訪れる人々がつながる場所を創る」ことは、とても重要なことである。「地域の魅力に気づき地域に誇りをもつ人が増え、世代を超えて地域の魅力が継承されていくことを期待している」と結んでいる。そのとおりであり、今後に大いに期待する。

(2) お茶に惚れ込んだ男—日本茶ルネッサンスをめざして 服部嗣人氏 鈴木智香子氏 松永想氏

自由に楽しくお茶づくりができる環境を求めて移住し、完全無農薬のお茶「ひよしの茶」を東吉野村で作っている。日本茶の画一化・多様性の喪失を危ぶみ、未来(=各地域に独自の品種・味わい)に向けての活動を開始していることを高く評価する。

(3) 夢にお支払いを—移動酒場『にはらふ』 向川智己氏

多種多様の酒・肴を車に積み込み、村内を移動して飲み会を運営し、飲み会で本音の意見を集め、地域に発信・拡散する革新的な試みである。「地域全体で意見や構想を共有する仕組みをつくり、誰もがプレイヤーになれる機会をつくる」ことを目標としている。地域の方々の思いを把握する、その具現化に向けた取り組みを行っていることを高く評価する。

第 14 期地域 P&C 養成塾の報告と今後の運営方針

若林稔(地域 P&C 第 5 期 / 地域 P&C 養成塾塾長)

1. 第 14 期地域 P&C 養成塾の開催状況

(1)開催期間:2021 年 6 月 24 日(土)～2022 年 6 月 4 日(土)

(2)開催場所:橿原市今井町 4-11-26 阿伽陀屋若林亭

(3)開講回数:25 回(うち 3 回は追加開講)

(4)受講生の状況

①卒塾・地域 P&C 認定者数:5 名

②認定された塾生の初期状況

◇地域の課題に直面している ……………2 名(川上村・東吉野村地域おこし協力隊員)

◇これから地域を見つめる仕事に就きたい ……1 名(女子大学生)

◇長い海外生活から日本を見つめたい ……1 名(上海滞在女性)

◇地域の活性に役立ちたい ……………1 名(三郷町竜田古道団体員)

(5)受講生の活動概況

多彩な構成でのスタートになったが、前半は基本講座とともに、早い時期から姉妹組織である奈良フェニックス大学のシンポジウムでの発表を1本に絞ったため、全員の個性や個々の持ち味を表面に出してあげることが難しかった。しかし、その発表が新型コロナウイルス感染症の影響から中止になり、すぐに方針を切り替えて、個々の特性や今後を見据えた考え方を全面に出し始めたことにより、卒業課題に向けての内容が深くなっていった。5 名の同窓意識が強くなってきたのもこの頃からで、個々の持ち味がどんどん出ははじめ、良い勢いを6月の総会後のシンポジウムにまで持ち続けることができた。

2. 今後の運営方針

(1)地域 P&C 養成塾の活動拠点が、奈良県の中心部で、古民家であるという立地に代わって 4 年目に入る。この立地・個性を活かし、実体験や現地見学を多様化して現場をよく知る塾生を育てられる塾にしたい。

(2)気候変動、世界情勢が大きな変化を起こしてきた根本原因を芯から理解できる人材を育成できる機関にしていきたい(これこそが NAED が目指してきた理念であると理解しています)。

(3)他人のために平気で汗を流せる人材を育成したい。

(4)上記は行政では踏み込めない部分も多いので、私塾の強みを生かして「先走るバカ」をつくり、それを支える人材を養成していきたい。そのために、講師陣も塾生たち以上にしっかりと現地を知り学んでいきたい。

(5)塾生募集のあり方については、募集方法の多様化と OB による募集協力強化を求める。

第 14 期 P&C 養成塾の感想と今後への抱負

森本文也(地域 P&C 第 14 期)

2021 年の 6 月中旬に P&C 養成塾のことを教えていただき、地元の方の支援をいただいて、2022 年 6 月 4 日のシンポジウムまで、1 年を通して、様々なことを経験することができました。そして、「地域づくりとは？」という問いかけに、自分なりの答えらしきものを見つけることができました。

養成塾へ通い始めたころは、座学の学びが中心でした。ただし、座学の内容を聞いていても、話自体を頭で理解することはできるが、実感が伴わないところがあり、「なんとなくわかった気がする」という感じがしていました。

しかし、回を重ね、今井町の方々との出会いをはじめ、地域 P&C の先輩方、講師の方々との交流のなかで、座学で聞いていた話が少しずつ実感や体験として身についてきているような気がしてきました。

そういった感覚をもつと同時に、「この養成塾は、1 年通して勉強して完成ではなくて、そこからが大切なのだな」という思いも大きくなってきました。

肌寒くなってきた頃から、同期生と「地域づくりとは何なのか？」という話をするようになりました。その話題について話した最初の頃は、自分なりの答えをもてずにいました。ですが、その頃から、講座ごとにいろいろと話を重ねてくうちに、新年度を迎える頃には「地域づくりとは何なのだろう？」と考えて、考えながら地域に対して行動を起こし、続けていくことが地域づくりなのではないか、答えが見えてきたり、また隠れて見えなくなったりの繰り返しをすることが地域づくりかもしれない」と考えるようになりました。

養成塾に参加している 1 年の中で、出会い、話を聞いている中で、ひとつとして短期間で成果があったというお話を聞くことはなかったように思います。最初は小さなことや些細なことの積み重ねがあって、それが徐々に広がっていき、ようやく形になってきたが、まだまだこれからというように話されている方ばかりでした。きっと「地域づくりとは、そういう小さな積み重ねが受け継がれていき、つながっていった先に何かがあるものなのだ」と 1 年を通して学ぶことができました。

先日のシンポジウムの中でも紹介させていただきましたが、私は現在、自宅の空きスペースを活用して地域の魅力を発信し、地域の方と交流する場所の整備を進めています。今は、遊びに来てくださる方々に少しでも心地よく過ごしていただけるように、電気設備の工事を計画しています。

自宅の空きスペースを活用し、地域の人と町へ遊びに来てくださる方々との交流の場をつくり、地域を盛り上げていきたいと思っています。